

政府・原子力規制委員会は 汚染水対策に集中すべきです
汚染水流出は全ての原発で起こる
再稼働審査を中止させよう! 9・28集会



ゲスト：菅野みずえさん（浪江町）

汚染水流出に反対する活動と、何も変わらぬ浪江町のいま

☆ 集会の内容 ☆

- ・ゲスト 菅野みずえさんのお話
- ・汚染水漏えい・流出事故の深刻さ。さらなる漏えいの危険
- ・海外は汚染水問題をどう見ているか
- ・汚染水漏えいは全ての原発で起こる。再稼働審査の問題点
- ・今後の活動について討論

ゲストの菅野みずえさんは、汚染水流出を強く危惧し、6月頃から署名を呼びかけ、約2万筆の署名を9月11日経産副大臣に提出されました。署名活動に取り組む思いや副大臣の対応などを語ってまいります。

また、事故から2年半が過ぎても、

何も変わらぬ浪江町のいまを話していただきます。原発事故がもたらす現実を直視しましょう。

○日 時：9月28日（土）午後6:30～9:00（6:15開場）

○場 所：ドーンセンター 5階 特別会議室

地下鉄谷町線・京阪「天満橋」下車歩約7分

○参加費：700円（大学生以下300円）

福島第一原発の放射能汚染水の漏えい・流出事故は深刻さを増しています。タンクから漏れた300トンの汚染水には、広島原爆で放出されたストロンチウム90の約半分にもあたる30兆ベクレルのストロンチウム90が含まれていました。安倍首相の「汚染水はコントロールできている」の大ウソは、地元・国内をはじめ海外からも批判と不審の声にさらされ、政府がいかにかこの問題を軽視しているかを示す結果となっています。東電や政府の対応に、海外からも厳しい目が注がれています。

原子力規制委員会は、汚染水対策は片手間で、再稼働審査に人員と時間をさいて急ピッチで進めています。新基準では、汚染水が海に流出しないよう対策を求めています。しかし、電力会社の対策は、大飯3・4号ではシルトフェンスを張ること、伊方3号では土嚢の設置等です。泊原発や玄海・川内原発では対策の記述さえありません。これらは福島原発で役に立たなかったことばかりで、子どもだましの「対策」です。さらに、全溶解燃料が格納容器に落下してもその底は破壊されないとし、汚染水が溜まり続けて漏えいする危険性はまったく無視しています。

玄海原発の隣の長崎県漁連は、海の放射能汚染に反対して玄海原発の再稼働に反対しています。10月初めには「再稼働どころではない！緊急国際署名」の第一次提出と政府交渉を行います。

上記の問題点を学び、再稼働審査を中止させ、原発ゼロを継続させるために、議論しましょう。母なる海の汚染をくい止めましょう。

緊急国際署名 <http://p.tl/9YXI> 第一次集約：9月25日／第二次集約：10月20日

主催：グリーン・アクション／美浜の会／おおい原発止めよう裁判の会 2013.9.19

連絡先団体：グリーン・アクション京都市左京区田中関田町 22-75-103. TEL：075-701-7223